

#### 第116号

(発行所) 真宗大谷派

### 人 類 滅亡

うだ。 近年稀にみる気候の激変、 ホーキング博士は ているであろうという予想を百年に修 人類に残された時間 語っ た。 は、 地 人類はあと千年ほど生存し せ 一球温暖化が主な原因のよ 13 ぜい百年しかない」と Ĭ したの である

た。 後には私は生きてい あと百年と言われて自 な 15 一分が か 5 関係な で何を思 15 つ と瞬間 たか、 もう百年 的 15 思

のに

とは知らん、

というのが本音だ。

自分の子孫のことな

P は

n

^自分が生きている間が大事で、

あ

とのこ

生まれている。 な し 13 か し、 百年後に人類が滅亡するならば、 今から百年前は一 百年というのはそんなに長い 九一七年で、 私が生きてい 私の祖父は . ₺ 0) では

は子孫から感謝どころか憎

まれるかもし

れ

な 6 1

今日見た0歳

0

赤ちゃ

h

が ?百歳

0)

時に

な

13

L

無関係でもな

る。

どこか

頭

0)

中

には、

私

O

死

頑

という何とも無責任

真宗大谷派 松岡山 唐 讃 寺 中村区城屋敷町3-30 TEL (052) 411-5301 FAX (052) 411-5341 携帯 090-1568-4623 〈E-mail〉 matsuoka@kosanji.or.jp 真剣みのないエールくらいしか送れず、身につまされ 張って乗り切ってもらいたい、 滅亡を迎えるのであ 簡単に言えば、 る時に顔を見たことがある人が死ぬということもある な んだ後はその時に生きている人たちで滅亡の危機を ということだ。決して先では 無関係ではないのだが、 11

廃 0) 来ないでほしい、 É (棄物を後世に残すというのも同じようなもの 例えば、 よく先祖に感謝しなさいと言われるが、 無害化するのに一 私が生きているうちに南 私が死んでからにしてほしいと思う 万年 か かると 海 13 1 ・ラフ わ れる 百年 0) 後に 放 地 か 射 震 我 性

までの三日間で、

年で一番寒い大寒の時であった。

では、

廣讃寺の報恩講は旧暦の一

月十三日から十五日

私が知っている限り

お斎も作っていたことであろう。

## 廣讃寺のお斎

伊藤和美

に報恩講は浄土真宗において最も重い法要である。三回忌の時に『報恩講私記』を撰述されたことを起源を語った御伝鈔や御絵伝を残された。親鸞聖人の三十願寺を建てて本願寺三世を名のった。親鸞聖人の一代願寺を建てて本願寺三世を名のった。親鸞聖人の一代

た精進料理がお斎として今に伝わる。の門徒が蓮根や椎茸、大根などの食材を持ち寄り作っの門徒が蓮根や椎茸、大根などの食材を持ち寄り作っ

おそらく廣讃寺でもそんな頃から報恩講は勤められた。その後その地は一柳村、織豊村、稲葉地村などと 廣讃寺は十五世紀に尾張の国、一柳の庄に建立され

> ある。 た。 変である。 姑さんは本堂でお参りかお膳へのつけ分けをやってい 年に五人も結婚した年ならいいが、年に一人の時は大 をするのはその年に結婚した新嫁さんである。 屋根のない井戸での洗い物は大変だったと思う。 赤ちゃんを背負いながら、 ろうが雪の日になった時は寒かっただろう。雪の日に つるべで井戸からくみ上げ、 お斎の味付けとご飯を薪で炊くのは年輩の男衆で 二年目の新嫁さんも手伝うこともあっ という光景も思い浮かぶ。 野菜を洗う。この洗い 例えば 水を ただ 物

月十五日にし、 ができ少し便利になった。そして一月はまだまだ寒い 続いている。 ということで十二月の初めの金・土・ めたものである。 だ。 廣讃寺のお斎のメニューは<br />
黒豆とおから寿司で今も 井戸に屋根もつき、 おから寿司とは、 旧暦でやっていた報恩講を新暦の か月早めたので寒さもわずかに和ら 水を汲むのも手押しポンプ あげの中におからを詰 日曜 H の三 一日間

交互にするようになった。
当番制にし、稲葉地を上の切り地区、下の切り地区で嫁さんでなく女人講でするようになった。お斎作りを嫁さんでなく女人講でするようになった。お斎作りをなられてなり、流しができて洗い物は

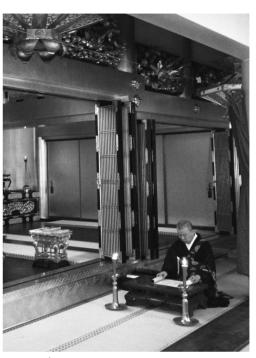
昭和三十九年の本堂建立から始まる復興永代経でもお斎は作られたので年二回のお斎である。その後、春・秋の彼岸でもお斎をやろうと考えたがお斎作りは大変なので、最初、門徒さんの寿司店から百個注文した。しかし参詣が百五十人だったので、さあ大変だということで、ある人は岩塚のスーパー、わしは中村のスーパー、またある人は岩塚のスーパー、わしは中村のスーパー、またある人は名鉄パレへと走った。なんとか五十個をかき集めた。翌年は寿司をあらかじめ百五十個があり、数量に融通がきくようにとお斎作りが始まった。春・秋のお中日彼岸は廣讃寺同朋会がお斎作りをた。春・秋のお中日彼岸は廣讃寺同朋会がお斎作りを

している。

今年からは報恩講を十一月一日から三日(日にち固今年からは報恩講を十一月一日から三日(日にち固っないがいる。また、お参りに来らいる。とは、近にしたので昔より四か月も早くなり寒くなく良いの後もお斎作りをお願いします。また、お参りに来られる皆さん、ぜひ美味しいお斎を食べていってくだされる皆さん、ぜひ美味しいお斎を食べていってくだされる皆さん、ぜひ美味しいお斎を食べていってくだされる皆さん、ぜひ美味しいお斎を食べていってくだされる皆さん、ぜひ美味しいお斎を食べていってくだされる皆さん、ぜひ美味しいお斎を食べていってくだされる皆さん、ぜひ美味しいお斎を食べていってくださ







今年より報恩講は11月1日~3日(日にち固定)に勤められることになり、 無事に円成いたしました。

## 20 組 行事予定

十二月十五日(金)◎東別院報恩講 団体参拝 十一月二十四日(金) バ ス 旅 東本願寺報恩講

外陣で助音につきます。おつとめのけいこの後

# 十一月一~三日

行事予定

十一日(土) 七時半 同朋で一〜三日 報恩講執行 同朋委員会·例会

二十八日(火)十時十九日(日)二時人 7~四時

九日(土) (役員は七時) 七時半 同明 委員会·例会

一十八日(木) 十九日(水) 十時 ( ) 四時 二十八日講·女人講

三十一日(目)十一時半 除夜